

長岡市内の病院勤務消化器内科医数の減少を受けて

新潟県は人口あたりにすると全国で最も医師の少ない県です。中越医療圏も例外ではなく医師数は全国で下 1/3 に位置する医師不足地域です。この医師不足の中でも長岡市内の患者さんはほとんどすべて域外に搬送されることなく診療を受けることができます。これは、①救命救急センターを持つ長岡赤十字病院、長岡中央総合病院、立川総合病院、という急性期 3 病院が**救急輪番体制**を組んで3日に 1 度、責任をもって救急医療にあたっていること。②急性期病院と急性期を過ぎた後の治療・リハビリを担ういわゆる回復期病院との**機能分化**が進んでいること。③機能分化と同時に両者の**連携**がスムーズであること。④**病院／診療所間の連携**がとれており適切なタイミングで適切な病院／診療所に紹介・逆紹介できる体制が整っていること。⑤長岡市民、長岡市、長岡市消防本部のご理解によりこれらの体制が長岡の文化として根づいていること。以上5点によるものと考えています。

本年 4 月より新潟大学医学部入学定員が 140 人に増員されました。また、卒業後県内で臨床研修を行う医師は 150 人まで増える予定です。このように新潟県の医師不足解消への道筋は見えてきていますが、残念ながら 4 月からの開業ラッシュもあって新潟県全体で病院勤務の消化器内科医が減少します。当然、病院の消化器内科専門医でなければ対応できない病気の診断治療については県内すべての地域で多かれ少なかれ“行列ができる／順番待ち”となることが予想されます。そして長岡も例外でないことをご理解ください。

長岡市の医療は病院・診療所・行政そして市民の皆さんとのきめ細やかな連携で成り立っています。急性期病院にだけ医療資源が集約されすべての医療を担っているわけではありません。急性期病院は、決して多くはない医師数で医療連携の輪の中で重い病気の外来患者診療、入院患者診療、そして救急外来に対応しています。緊急性のない自己都合による夜間救急外来受診者への対応などで各診療科の専門医が疲弊し本来の仕事(入院が必要な救急医療、予定された高度な急性期医療)に支障が出る事態は避けたいところです。

市民の皆さんにお願いがあります。「すぐに病院に行った方がよいか」や「救急車を呼ぶべきか」、悩んだ時は相談先として**救急安心センター事業 電話(＃7119)**。お子さんの場合**子ども医療電話相談事業 電話(＃8000)**があります。是非ご活用ください。また、普段からかかりつけ医とともに日々の健康管理を行い生活習慣病の悪化防止に努めることも重要です。そして、何かあった時はかかりつけ医から病院に紹介／落ちついたら診療所に逆紹介という連携を活用することが地域の医療を守るために必要であることをご理解ください。ご協力をお願いいたします。

令和 5 年 2 月 27 日

長岡赤十字病院 院長 川嶋 禎之